

沼津市の中心市街地活性化基本計画について

沼津市産業振興部商工振興課 宮本 秀昭

1. 沼津市の概要

沼津市は、首都 100km 圏に位置する静岡県東部地域にあって、東駿河湾地域や伊豆への交通結節点に位置する人口約 20 万 8 千人の都市です。恵まれた地理的条件のもと、古くから広域的な商業・業務の拠点都市として、地域の行政、経済、文化、教育等の中心的な役割を担ってきました。

商業に加えて温州みかんや茶などの農業、あじのひらきに代表される水産業、大手メーカーをはじめ多様な形態の中小企業に支えられる工業など、バランスのとれた産業構造を有しています。

また、富士箱根伊豆国立公園地域の中央部に位置する本市は、駿河湾から富士山を仰ぐ眺望や約 62km に及ぶ海岸線など風光にも恵まれています。明治時代には御用邸が造営され、中央から多くの文化人・政財界人が移り住み、現在も観光都市としての一面を持っています。全国有数の市場取り扱い金額を誇る沼津港には、飲食街が立地し、新鮮な魚介類を求めて多くの観光客が訪れます。

本市は、大正 12 年に全国で 89 番目、県下で 3 番目の市として誕生しました。その後、幾度かの合併を経て平成 12 年 11 月に特例市に移行し、平成 17 年 4 月には戸田村との合併により現在の市域となりました。

現在、主要事業として、沼津駅周辺地区において

の鉄道の高架化をはじめとする沼津駅周辺総合整備事業や沼津港整備事業などを推進しており、さらに魅力ある首都圏の一翼を担う広域的な拠点都市を目指しているところです。

2. 中心市街地の概要

様々な都市機能が集積するとともに、12 の商店街や百貨店等があることから、JR 沼津駅を中心とする概ね半径 1 km の地区、約 227ha を中心市街地と位置づけました。

戦後、防火建築で全国初となるアーケード街がつくられ、百貨店をはじめとする大規模店舗の出店や商店街の整備が進むなど、沼津市の中心市街地はめざましい勢いで復興し、県東部地域の商業拠点として活況を示しました。また、行政をはじめとする都市機能の集約が進みました。

しかしながら、時代の変化とともに周辺の市町が発展し、本市の拠点性は相対的に低下してきました。また、郊外に大型店の出店が進む一方、沼津駅周辺では大規模店舗の撤退が相次ぎました。

さらに、中心市街地では建物の老朽化、交通環境の悪化、空き店舗数の増加なども加わり、居住者や来街者の減少が見られるのが現状です。

3. 中心市街地活性化の基本方針

(1) 中心市街地の果たす役割

沼津市の地域特性から、中心市街地が将来ともに担うべき役割として、

- ① 静岡県東部 120 万広域圏の都心
- ② 富士箱根伊豆を結ぶ交流拠点
- ③ 便利で快適な都心居住の場

が挙げられます。



(2) 中心市街地の目指す将来像

本市の中心市街地には、まさに都市の中心として、住む人が住む喜びと誇りを抱き、訪れる人が安らぎと親しみを感じて、人々がはつらつと活動する生活の魅力ある舞台であることが望まれます。

このような意味から、中心市街地の目指す将来像を「人が輝き躍動するステージ」としました。

(3) 将来像の実現に向けた基本方針

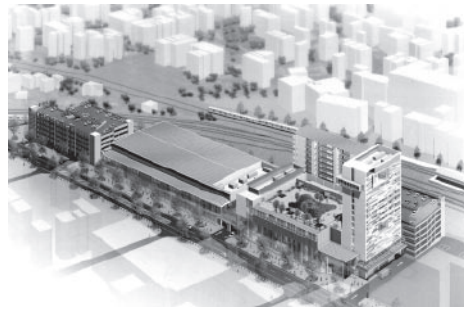
目指す将来像の実現には、住む人、訪れる人のさらなる拡大に向け、都市機能の郊外への無秩序な拡散を抑止しつつコンパクトなまちづくりを進めることが求められます。そこで、基本方針として次の2点を定めました。

1 広域拠点都市にふさわしい魅力ある都市機能の集積

→ 交流人口の拡大

2 多様なライフスタイルに応える便利で快適な居住環境の創造

→ 定住人口の確保



東部コンベンションセンター イメージ図

(3) まちを楽しみ快適にする多様な市民活動の推進

中心市街地は、住む人はもとより広く訪れる人々が様々な活動を繰り広げる場であり、このまちづくりは、多様な担い手が主体的に取り組んでいくことが重要です。にぎわいを生むイベントの展開や生涯学習、健康づくりをはじめまちづくりの様々な活動を推進する市民団体、NPO 法人などの活動の促進が求められます。



市民活動に支えられるイベント「よさこい東海道」

4. 中心市街地活性化のための重点戦略

沼津市中心市街地活性化基本計画では、重点戦略として次のような取り組みを掲げています。

(1) うるおいとゆとりを感じる回遊性の高いまちづくり

都市機能の集積や市街地を流れる狩野川などの地域資源を活用し、便利で心豊かに暮らせる都心居住の快適さを満喫できる場とするとともに、訪れる人々が魅力を感じ回遊したくなるまちづくりを展開します。

鉄道高架化をはじめとする沼津駅周辺総合整備事業やセントラルパーク構想の推進、既存商業地の魅力向上、沼津港界隈との連携強化、交通ネットワークの充実などに取り組みます。

(2) コンベンションの振興

静岡県東部地域の持つ「医療機関、研究開発型企業の集積」「富士山・伊豆などの豊かな自然環境」「東京から1時間の立地優位性」と、沼津市の持つ広域拠点性などの資源を活用し、人、もの、情報の交流拠点となるコンベンションセンターの整備やコンベンションビューローの活用をはじめとしたコンベンションの振興を図ります。

5. おわりに

沼津市中心市街地活性化基本計画は、昨年12月に大臣認定を受けました。

地域経済を取り巻く状況が依然として厳しい中、中心市街地の再生は喫緊の課題となっています。幸いなことに、沼津市の中心市街地にはこれまで蓄積してきた豊富な地域資源があり、それに加えて近年では若い商業者が新しい感覚で経営する店舗や、意欲ある市民有志による手作りのイベントなどがまちに刺激を与えています。

今後も市民、商業者、各種団体等と行政とが一体となり、目指す将来像の実現に取り組んでいきたいと考えています。

(みやもと ひであき)